

特定小電力タイプ



無線操縦装置

クレディコン

－ 取扱説明書 －

クレディコンM : CRM2-12

 警 告

- 取扱説明書本文にでてくる警告事項の部分は、製品を使用する前に注意深く読み理解してください。
- 必ずこの取扱説明書に従って、取付け・運転を行ってください。
- 分解・改造・修理などは絶対にしないでください。

 注 意

- この無線機は、無線設備規則の制限により、1つの操作を連続して90秒以上行うことはできません。
詳細は、本紙「5-2 動作説明」を参照してください。

日本ホイスト株式会社

需要家の皆様へ

このたびは当社製品をお買い上げいただきありがとうございます。

お求めの無線操縦装置「**クレディコン M**」を正しく使用していただくため、お使いになる前にこの「取扱説明書」をよくお読みください。

この取扱説明書は、実際に無線操縦装置「**クレディコン M**」をご使用になるお客様に必ずお渡ししてください。

お読みになった後、本書は運転操作される方が必要なときにいつでも読めるように保管してください。

ご不明な点がございましたら、お近くの当社支店、営業所、出張所宛にお問合せください。

正しい設置・使用方法のもとで効果を上げ、貴社の運搬管理の合理化にお役立ててください。

今後とも末永く当社製品をご愛用くださるようお願い申し上げます。

目 次

1. 安全について	
1－1 警告用語の種類と意味	1
1－2 取扱全般について	2
1－3 運転資格について	2
1－4 登録について	2
2. お取付前に	
2－1 着荷時の点検	3
2－2 クレーンにご使用の場合について	3
2－3 外観	4
3. 取付方法	
3－1 受信機本体の取付け	5
3－2 配線	5
3－3 配線の確認	7
3－4 同時操作	7
4. 試運転	
4－1 送信機の電池について	8
4－2 試運転	8
5. 送信機の取扱いについて	
5－1 電池チェック	8
5－2 動作説明	9
5－3 取扱い方法	9
6. 故障と対策	
6－1 故障とお考えの前に	10
7. 無線操縦式クレーンの安全心得	11
8. 仕様	12

1. 安全について

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止し、安全に正しくご使用いただくために、重要な内容を記載しています。必ずこの取扱説明書を熟読し、正しくご使用ください。
機器の知識、安全の情報、そして注意事項のすべてを習熟してからご使用ください。

1 - 1 警告用語の種類と意味

取扱説明書および機械本体に取付けてある警告ラベルでは危険度の高さ（または事故の大きさ）に従って、次の 3 段階に分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警告用語	意 味
 危険	切迫した危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重大な傷害を生じるであろう、差し迫った危険状態を示します。
 警告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重大な傷害を生じることがあり得る、潜在的な危険状態を示します。
 注意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う場合、機器・機械が損傷する場合、または製品に不具合が生じる場合を示します。

※注意に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。

図記号の説明

表示	意 味
	してはいけない「禁止」を示します。
	必ず実行していただく「強制」を示します。
	危険・警告・注意を示します。

絵表示の例



△記号は、危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が記載されています。

⊘記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が記載されています。



●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な指示内容（左図の場合は必ずアースを接続してください）が記載されています。

1 - 2 取扱全般について

 危 険	
	● 分解、改造、修理等はしないでください。 送信機は技術基準適合証明を受けたものであり、改造することは法律により禁止されています。 ● 修理は販売店にご依頼ください。

1 - 3 運転資格について

この無線操縦装置の使用にあたっては、無線従事者免許および無線局開局の申請または届出は必要ありません。電波法施行規則第 6 条で定める「特定小電力無線局」として、認証を取得し、認証シールを貼付しています。

●クレーン運転資格（無線、運転室付きの場合）

つり上げ荷重	クレーン運転資格
0.5t以上5t未満	クレーン運転士免許所有者、床上運転技能講習修了者、事業者よりクレーンに関する特別の教育を受けた者
5t以上	クレーン運転士免許所有者

 危 険	
	● つり上げ荷重が0.5t以上5t未満の場合は、クレーン運転士免許、床上運転技能講習または運転特別教育修了の資格が必要です。 ● つり上げ荷重が5t以上の場合は、クレーン運転士免許の取得が必要です。

1 - 4 登録について

 危 険	
	● 同じチャンネルのクレディコンMが近くに取り付けられている場合、不動作の原因となります。これを防止するため、登録制度を設けています。ご面倒でも当社に設置登録をしてください。 チャンネルシール記載の3ケタのうち最初の2ケタが同じ記号で3ケタ目の数字が異なる場合は、受信機同士を可能な限りはなして設置してください。 ● 移設した際には、新しく取付けた場所をお近くの当社支店、営業所、出張所へご連絡ください。

2. お取付前に

2-1 着荷時の点検

クレディコン M は、1 台ごとに完全調整し厳重な試験検査を行なっていますが、輸送中の事故が皆無とは言えませんので、梱包を解かれましたら直ちに次の事項を点検してください。

- (1) 特定のチャンネルを指定された場合、間違いないかお確かめください。チャンネル表示は次の位置に表示してあります。

送信機：電池ケース内

受信機：下面左側（2-3 外観参照）

- (2) 機体に損傷はないか。

- (3) 不足品はないか、標準構成品は次のとおりです。

品 名	数量	品 名	数量
送 信 機 ^(注)	1 台	充 電 電 池 ^(注)	2 本
受 信 機	1 台	サージ保護素子	7 個
充 電 器	1 台	シリコンカバー ^(注)	1 個
ア ン テ ナ	1 本	取 扱 説 明 書	1 冊

注) 予備送信機付きの場合 送信機 2 台分となります。

2-2 クレーンにご使用の場合について

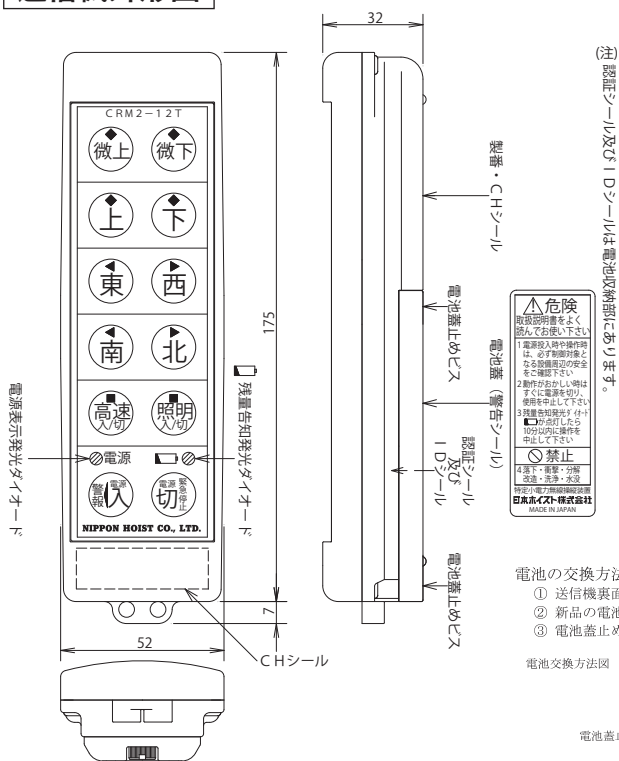
 注 意	
	● クレーン構造規格第18条により、走行クレーンは、走行を制動するためのブレーキが必要です。 ● クレーン構造規格第30条により、電鈴、ブザー等の警報装置が必要です。

無線操縦装置をクレーンの操作に使用される場合には、クレーン構造規格の規定を満足する必要があります。走行にブレーキを設けていないクレーンおよび警報装置を設けていないクレーンに**クレディコン M** を取付ける場合には、クレーン構造規格第 18 条及び第 30 条の規定により走行にブレーキ及び警報装置を取付けなければなりません。

この場合に、つり上げ荷重が 3 t 以上のクレーンのブレーキを変更するときには変更届が必要となります。

2-3 外觀

送信機外形図

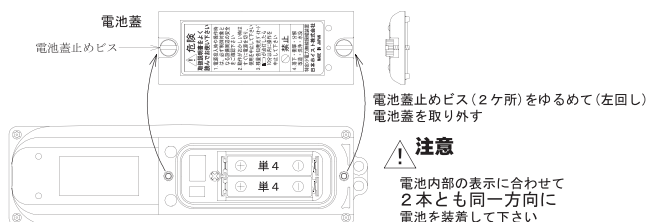


電池の交換方法

- ① 送信機裏面の、電池蓋止めビス（ローレットビス）2本をゆるめて（左回し）電池蓋を外して下さい。
- ② 新品の電池2本と交換して下さい。電池の向きを同一方向に装着して下さい。
- ③ 電池蓋止めビスを締めて（右回し）、電池蓋を装着して下さい。

* この時 締め付けがゆるいと水が浸入しますので、ご注意ください。

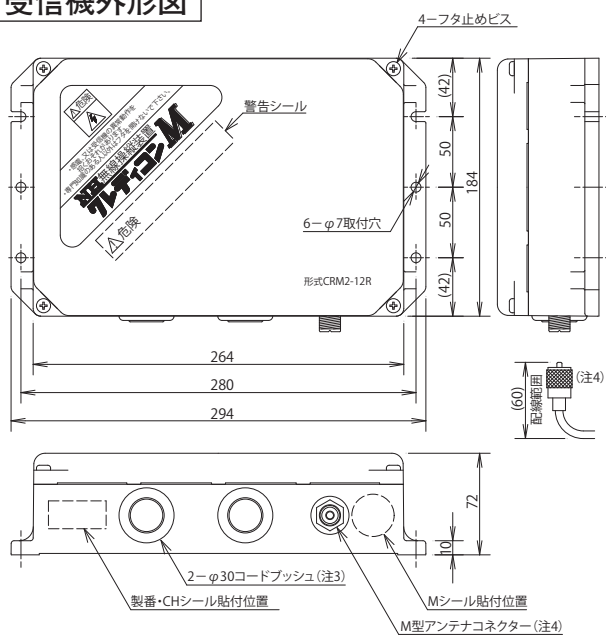
電池交換方法図



注意

電池内部の表示に合わせて
2本とも同一方向に
電池を装着して下さい

受信機外形図



(注3) ビルドインタイプには添付されません。

(注4) ビルドインタイプは専用の延長ケーブル付となります。

3. 取付方法

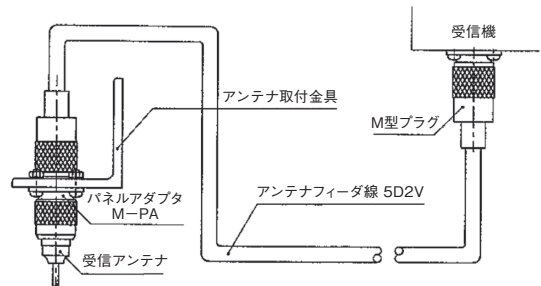
3-1 受信機本体の取付け

	 危 険
	● 取付工事は専門業者あるいは、専門知識のある人が行なってください。 ● 振動、衝撃に対する保護対策を行なってください。

受信機はクレーンガーダあるいはホイスト本体に取付けますが、次の点にご注意ください。

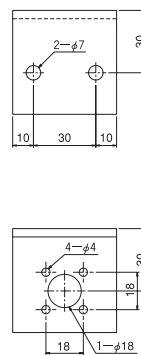
- (1) 裸トリ線あるいは大きな雑音の発生源から出来るだけ遠ざけてください。アンテナは操縦者からみえる位置へ垂直に取付けてください。
- (2) 酸・アルカリ雰囲気、高温箇所への取付けはボックス等の保護対策を行なってください。
- (3) 歪まないよう、平滑な面に取付けてください。
- (4) 付属の防振ゴムを利用し、振動、衝撃に対する対策を必ず行なってください。
- (5) 受信機のアースは必ず設けてください。
(第7図参照)
- (6) アンテナを受信機本体へ直接取付けしない場合、アンテナフィーダ線は5D2Vを使用し、接続してください。(第5図参照)
- (7) 前記の場合のアンテナ取付金具は、第6図に示しています寸法でご準備願います。なお、アンテナ取付金具は、アンテナフィーダ線に5D2Vを使用したものを、オプションとして用意いたしております。

第5図 フィーダ線

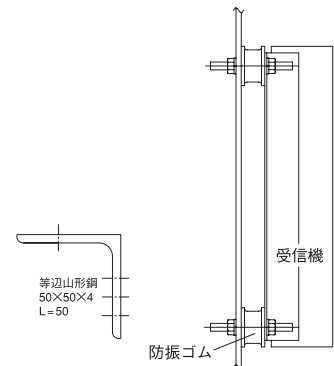


・アンテナを受信機に直接取付けしない場合

第6図 アンテナ取付金具



第7図 防振ゴム



3-2 配線

	 危 険
	● 電気工事は専門業者あるいは、専門知識のある人が行なってください。専門知識のない人が接続すると火災や感電の原因となります。 ● 受信機を据付けてから配線してください。

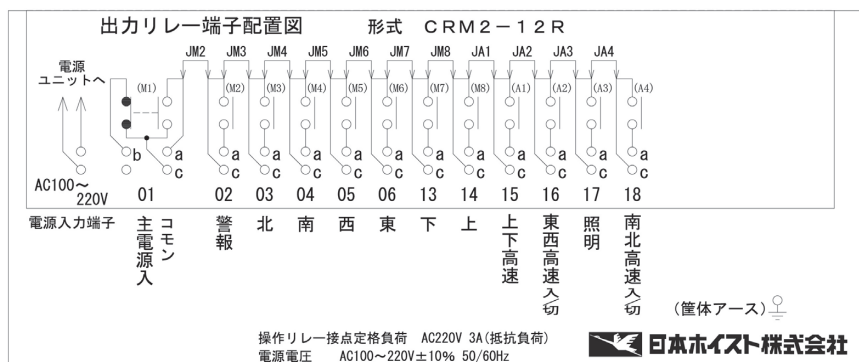
⚠
危
険

- アース線を確実に接続してください。
- 受信機はプラスチック製ですので筐体アースが必要です。筐体アースは、電源ノイズ対策部品を有効にするために必要ですので必ず実施してください。
また、ケースは導電性プラスチックを使用しています。絶縁体ではありませんので電圧を印加しますと電流が流れます。フタの上で電気作業などは決してしないでください。

⚠
注
意

- 制御する電磁接触器及び補助継電器のコイルには、サージ保護素子を必ず取付けてください。
- 受信機の主電源入りレーの接点定格はAC250V 7.5A（誘導負荷）、DC30V 5A（誘導負荷）、操作リレーの接点定格はAC220V 2A（誘導負荷）、DC24V 1A（誘導負荷）です。
直接操作可能なマグネットスイッチとしては**下記の型番**と同等クラスを目安としてください。
富士電機 SC—N4／三菱電機 S—N65
尚、開閉回数を増やすには余裕を持たせることが重要となります。出来るだけ補助リレーを入れて配線してください。これは、受信機のリレー接点が閉じる瞬間の突入電流を考えておかなければいけないのと、同時に多操作した場合に受信機のコモンラインに大きな電流が流れるのを防ぐ為です。
制御容量はコモンラインに流れる電流の合計が7A以下を目安としてください。
開閉回数を超えてご使用になった場合は、すみやかに該当するリレーを交換してください。そのまま使用継続されますと、安全性が低下する危険性が増します。定期点検時には必ずご確認して頂けますようお願い致します。
- ハイインピーダンスの補助継電器をご使用になりますと、漏れ電流により信号が切れても自己保持現象により補助継電器がOFFしないことがあります。
必ず対策を行なってください。（対策については、当社にご相談ください。）
- 電源電圧がAC100～220V以外は使用できません。
電源接続位置は同じ端子台です。

(1) 出力回路は以下のとおりです。



(2) 受信機の出力接点に警報器を直接接続すると、残響音が発生する可能性があります。
このような時には、補助継電器を介して警報器を接続してください。

(3) ・微上／微下と上／下間は、微速操作優先のインターロックがかかっています。
・高速入／切は東／西及び南／北の高速入リレーを ON／OFF する為の操作ボタンです。
・東／西、南／北の高速入／切りレーは受信機保持です。
・照明入／切りレーは受信機保持です。

3－3 配線の確認

配線が終わりましたら間違いがないか再度確認してください。配線に間違いが無かったら受信機に通電してください。基板上の通電 LED が点灯して通電が確認できます。

3－4 同時操作

上下・東西・南北の様に相反する押しボタンスイッチにはインターロックが付いています。

4. 試運転

4-1 送信機の電池について

本機は市販の単4型乾電池を2本使用することにより動作が可能です。

弊社が用意した充電電池をはじめてお使いの時や、長期間ご使用にならなかった時は、ご使用前に必ず電池を充電してからお使いください。

充電電池は消耗品です。十分に充電しても使用時間が短くなった時は充電電池の寿命です。新しい電池と交換してください。

マンガン電池、アルカリ電池は充電することが出来ませんので絶対に充電器にセットしないでください。

充電式電池を充電する場合は、充電式電池専用（もしくは指定）の充電器を使用してください。

4-2 試運転

順次、送信機の押ボタンを押して動作の確認をしてください。

クレーンに使用する場合は、最初は必ず「上」の押ボタンを押し、フックが上昇するかどうか確認してください。上昇すれば正しく配線されていますが、もし下降する時は上限のリミットスイッチが動作しません。この場合、操作線の接続ミスか、インバータ仕様でない場合は電源の逆相が考えられます。接続ミスの場合は正しく配線し、逆相の場合はR相とT相（接地相でない2つの相）を入れ替えてください。（インバータ仕様の場合は電源の相を入れかえても改善しません）

5. 送信機の手扱いについて

 注 意	
	● 送信機は落としたり、衝撃を加えたりしないでください。 ● 送信機は防水型ではありません。水など液体をかけないでください。

5-1 電池チェック

- (1) 送信機の電源を入れ、送信機表面左下側の「」マーク横の電池残量表示灯にて電池電圧をチェックしてください。消灯していれば電池電圧は十分ありますが、赤色に点灯すると電池が消耗していますので充電を行なってください。
- (2) 一回の充電での使用可能な時間は、使用する電池の容量により異なりますが、おおよそ40時間程度です。
- (3) 送信機の電源切り忘れによる電池の消耗を防ぐため、電源入の状態で約10分間使用しない場合には、送信機の電源が自動的に切れます。再使用するには、「電源入」ボタンをもう一度押してください。

送信機LEDの点灯状態と内容

状 態	電源表示灯	 電池残量表示灯
電池電圧良好	赤色点灯	消 灯
電池電圧不足	赤色点灯	赤色点灯
自己診断エラー	1秒おきに4回 赤色点滅	—
ニュートラルインターロック	(電源がONしません)	—

5－2 動作説明

- ・受信機の東西高速入リレー（16）、南北高速入リレー（18）は、送信機の高速入信号（18）を受ける毎に ON / OFF を繰り返します。東西／南北高速入リレー（16, 18）は受信機側で保持しますので、送信機の電源を切っても変化しません。高速入リレーが ON 状態で送信機の電源を切り、次に送信機の電源を入れた場合は、高速入状態でスタートする事になります。ご注意ください。
- ・「警報」は「電源入」と共用で、「電源入」操作後「警報」ボタンとして機能します。
- ・本機は操作ボタンを押している間のみ電波を送信する仕様となっており、主電源入リレー（01）は受信機側で保持しています。「電源入」信号を受信すると ON し「電源切」信号を受信すると即座に OFF します。10 分間無操作状態が続くと主電源入リレー（01）が OFF する機能が付加されています。
- ・「電源切」操作は常時操作可能です。「電源切」操作ボタンを押すと電源表示発光ダイオードが点灯して送信していることを表示します。
- ・本機には連続操作 90 秒以内の時間制限があります。操作時間のタイムアップを事前警告するために連続操作時間が 84 秒を経過するとバイブレーターが作動し、更にそのまま 5 秒が経過すると操作信号は自動停波します。操作ボタンを押し直すと操作は再開できます。

5－3 取扱い方法

- (1) 水をかけないでください。水の侵入に対する保護対策は行なっていますが、完全防水仕様ではありません。湿気の多い場所、または雨などにかからないように、ご注意ください。
- (2) 送信機に強い衝撃を与えないでください。
落としたり、衝撃を加えますと、内部部品が損傷したり、電池の漏液、破裂等の原因となります。不意の故障等の為に予備送信機をお持ちいただく事をおすすめ致します。

6. 故障と対策

適切な設備と行き届いた保守を行えば一般的に故障を起こすものではありません。取付け条件が悪かったり乱暴な取扱いをしたり、また老朽化してきますと種々の故障や不具合が生じてきます。そのすべてを述べることは困難ですが、基本的な具体例を記しますので参考にしてください。一般的には、現地修理は難しく、また特殊なケースもありますので、最寄りの当社営業所へご連絡願います。

6-1 故障とお考えの前に

無線操縦装置が動作不良となった場合には、次の表に掲げるチェックを行なってください。もし回復しない場合には、お手数ですがお買い求め店、または当社営業所に修理を依頼してください。

作動表示発光ダイオードの見方について

通 ケ ル	ス ケ ル	デ ー タ	メ イ ン	操 作	ロ ッ ク	発光ダイオード名	表示内容
電	チ	タ	ン	作	ク	ン	受信機に正常な電圧がかかっている場合は点灯(正常点灯)
							キャリア信号受信時点灯
							受信データ 信号受信時点灯
							信号受信時点灯(正常時点灯)
							各操作用信号受信時点灯
							動作ロック時点灯
							常時 0.5秒間隔で点滅(正常時点滅)

(受信機プリント基板の右上部にあります)

	[状 態]	[原 因]	[対 策]
送信機	(1) 送信機の「電源」表示LEDが点灯しない。 送信機の電源をONにすると残量告知LEDが点灯したまま消えない バイブレータが動作すると電源がOFFする (残量告知LEDが点灯しないので切れる)	・電池残量不足 (電池電圧が2.3V以上ない)	・新品の電池と交換する
	(2) 電池交換をしても、「電源」表示LEDが点灯しない	・電池が正しく装着されていない (2本とも同一方向なので注意。＋と－を互い違いに装着していないかチェックしてください) ・送信機の落下等による損傷 ・ニュートラルインターロックが働いている時 (操作SWがON状態になっている)	・電池の交換 (表示に合わせて、2本とも同一方向に合わせる) ・新品と交換して下さい
受信機	(3) 受信機の通電表示LEDが点灯しない	・一次側電圧がかかっていない ・一次側電圧の降下	・正常な電圧にする／接続場所を点検する ・正常な電圧にする
	(4) 受信機の主電源入リレー (01) が動かない(スケルチ、データ、メイン、操作の表示LEDが点灯しない)	・送信機が他のクレーン等のものと間違っている	・送／受信機のチャンネルコードを確認する
	(5) 受信機の主電源入リレー (01) が動かない (送信機の電源をOFFにしてもスケルチが点灯している)	・電波環境が悪い ・インバータ電源がアンテナの近くにある	・ノイズ発生源をなくす ・アンテナの位置をインバータ電源からできるだけ離す
到達距離	(6) 距離が短い	・受信アンテナの設置不良 ・アンテナケーブルの断線 ・電源電圧異常(ノイズだらけ等) ・電波環境が悪い ・インバータ電源がアンテナの近くにある	・正常なアンテナの設置 ・ケーブルを調べ正常にする ・正常な電圧にする ・ノイズ発生源をなくす ・アンテナの位置をインバータ電源からできるだけ離す
	(7) 安定しない	・受信機が同一周波数の電波妨害を受けて混信している	・別の周波数にする事をメーカーに依頼 ・混信を与えている方の妨害電波を止める
動作	(8) パネル表示と違う動作をする リレーが動いているのに動作しない	・リレー接続ミス ・制御盤の接続ミス ・端子台とリレーソケット間の溶断	・接続を調べ、パネルと対応させる ・制御盤を点検する ・制御盤を修理した上でパターンを修理する
	(9) 動かない又は動かなくなった (データ、メイン、操作、ロックの4個が点滅している。又は、ランの点滅具合がおかしい)	・強烈な外来ノイズにより、マイコンが緊急停止している	⚠ 危険
	(10) 動かない又は動きがおかしい (ランの点滅具合がおかしい)	・受信機内温度が許容値を超えている ・雨ざらし、結露している	・断熱対策をする(-10℃～+60℃) ・防水対策等をする

⚠ 危険 臨時処置として受信機の電源を再投入すれば、原因が継続していない場合には復旧出来ます。しかし、一度これが生じますと重要部品の劣化が心配されますので、至急弊社もしくは代理店に連絡をお願いします。

尚、故障や不具合発生の際は、受信機のリレー動作を確認していただくと共に現場からお電話いただければ適切なアドバイスが可能です。

7. 無線操縦式クレーンの安全心得

クレディコン M は、多くの安全機能を備えていますが、操作上で誤った取扱いを行ないますと、思わぬ災害を引き起こす原因となります。取扱いにあたっては、次のことを遵守し、安全を心がけてください。

 危 険	
	● クレーンの動作及び周囲の状況がよく確認できる足元の良い位置から操作をしてください。 ● クレーンの動作やつり荷がよく見えない場合には、危険ですから操作をしないでください。 ● 運転者は、操作位置によってクレーンの動作方向を間違えやすいので、操作方向を十分に確認してから操作してください。 ● 運転中に誤動作が発生した場合には、直ちに運転を中止し責任者に連絡してください。再使用にあたっては責任者が原因を調査し異常が無いことを確認した後に行なってください。 ● 予備送信機がある場合は、誤って操作されないよう厳重に管理してください。
	● 送信機の異常に気づいたら、直ちに運転を中止し販売店に連絡してください。 ● 一人の運転者で、2 台以上のクレーンを同時に操作しないでください。 ● クレーンの点検及び修理をする場合には、作業中に他の人が誤って操作しないように送信機を必ず点検者の手元に置いておこなってください。

 注 意	
	● クレーン運転の有資格者が操作をしてください。 ● 無線操縦装置の取扱責任者を決めてください。 ● 運転中は、送信機の操作指令が正しく伝わっているかどうか、またクレーンとつり荷の状態を常に確認してください。 ● 操作が終了したり、一時中断をする場合には、送信機の電源を切ってください。 ● クレーンの運転終了時には、送信機は必ず所定の場所に保管してください。
	● 送信機を物にあてたり落としたりして、衝撃を与えないでください。万一落下衝撃が加わった場合には、送信機の各機能に異常がないかどうか確認した後で運転をはじめてください。 ● 送信機、受信機には水が入らないように注意してください。 ● 60℃以上の高熱の場所には放置しないでください。

8. 仕様

送信機	送信周波数	312.04 ~ 315.00 MHz
	電源	DC3V 20mA 単4乾電池 2本
	アンテナ	内蔵
	変調方式	2値FSK方式
	環境	-10℃～+60℃、RH95%以下
	構造	ハンディータイプ、IP65相当
	外形寸法	175 × 52 × 32mm
	重量	210g (電池含む)
	操作数	12機能 (微上、微下、上、下、東、西、南、北、高速入 / 切、照明入 / 切、電源入警報共通、切) 注) 高速入 / 切 釐は東西南北の高速 / 低速を切り替える為の釐となります
	送信出力	ARIB STD-T93 準拠 等価等方幅射電力 250 μ Weirp 以下
受信機	電源	AC100 ~ 220V $\pm$ 10% 50/60Hz
	出力接点容量	主電源入用 : 抵抗負荷 10A 誘導負荷 7.5A (AC250V) 抵抗負荷 10A 誘導負荷 5A (DC 30V) 操作用 : 抵抗負荷 3A 誘導負荷 2A (AC220V) 抵抗負荷 5A 誘導負荷 1A (DC 24V)
	誤操作防止	CRCC-CCITT によるエラー検出方式
	応答時間	100msec 以下
	環境	-10℃～+60℃、RH95%以下
	構造	IP65 相当 (防水接栓使用時) ※ビルドインタイプは屋内専用
	外形寸法	184 × 264 × 72mm
	重量	1.3kg
	出力リレー	主電源入 : G2R-1-S DC12V (オムロン) 操作用 : RB-105-DB DC12V (富士電機)
	アンテナ	ホイップアンテナ 240

クレディコン(M)登録票 記入例

クレディコン(M)登録票

需要家	住所	〒720-0541 広島県福山市津之郷町〇△×ー〇
	社名	(株)小林製作所 TEL 084(951)〇〇〇〇
	担当	第一工場 責任者 伊 全 太 郎

住所、社名、担当者は、詳しくご記入ください。

販売先	住所	〒726-0023 広島県府中市栗柄町〇△ー〇×△
	社名	(株)内田商会 TEL 0847(45)〇〇〇〇

クレディコンM 取付日

登録事項

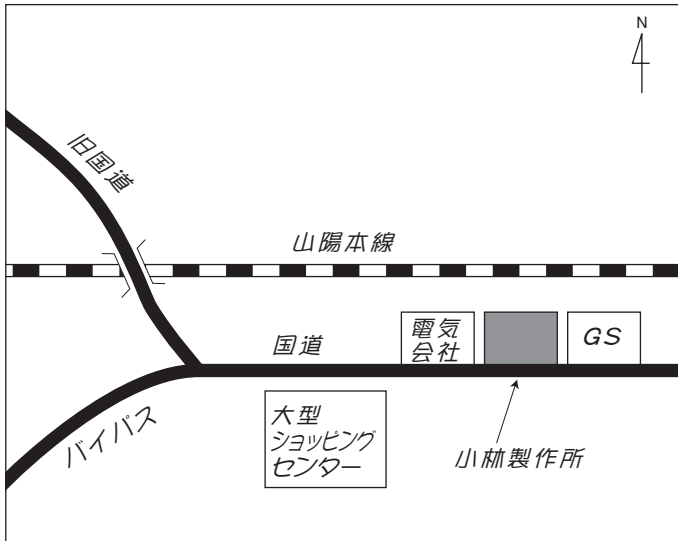
設 置 日	H26 年 9 月 1 日	クレーン製造年月	H17 年 3 月 2 日 (新設・既設(NH・他社製))		
製 造 N O .	720000-0-aS	チャンネル	CH:UA1	アドレス	ADD:0101
工場内で使用	(無)・有 (台)	使用 場 所	(屋 内)・屋 外 ()		
塵 埃	(少 い)・多 い	環 境	(一 般)・そ の 他 ()		
有害蒸気	(無)・有 ()	使用頻度	高・中・低 ()		
業 種	金属製品製造業	吊荷種類	鋼材 等		

NH: 日本ホイスト製

製造NO.、チャンネルおよびアドレスは、下の写真を参考にしてご記入してください。

一般: -10℃~60℃の範囲
その他: () 内に概略の数字をご記入してください。

設置場所・略図



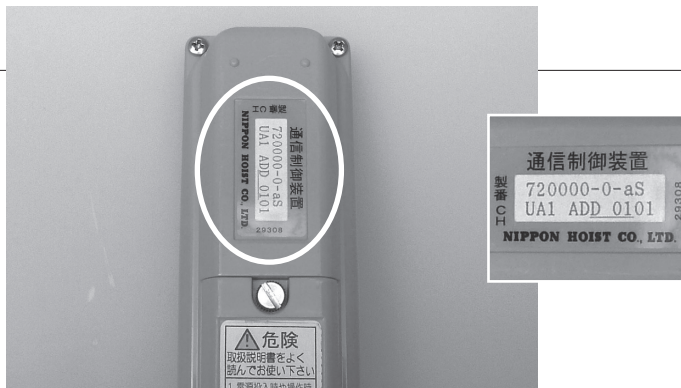
送信機表示

微上	微下
上	下
東	西
南	北
高速 入/切	照明 入/切
警報 入/切	緊急 停止

備考

備考は当社にて記入します。

写真



クレディコン(M)登録票

需 要 家	住所	〒
	社名	TEL ()
	担当	

販 売 先	住所	〒
	社名	TEL ()

登録事項

設 置 日	年 月 日	クレーン製造年月	年 月 日	新設・既設(NH・他社製)	
製 造 N O .		チャンネル	CH :	ア ド レ ス	ADD :
工場内で使用	無 ・ 有 (台)	使用 場 所	屋 内 ・ 屋 外 ()		
塵 埃	少 い ・ 多 い	環 境	一 般 ・ その他 ()		
有 害 蒸 気	無 ・ 有 ()	使用 頻 度	高 ・ 中 ・ 低 ()		
業 種		吊 荷 種 類			

設置場所・略図

送信機表示

	照明 入/切
警報	入切 緊急 停止

備考

※左ページ記入例を参考にしてご記入してください。ご記入されましたら、
ミシン目に沿って切取り、代理店もしくは弊社営業所まで、ご返却ください。



——— 運搬システムの合理化を推進する ———

日本ホイスト株式会社

本 社 〒720-0841 広島県福山市津之郷町258-4 TEL(084)951-2211 FAX(084)951-3005

札幌営業所 ☎011-704-7731	北陸営業所 ☎076-432-5012	広島営業所 ☎082-822-3673
東北支店 ☎022-235-5691	静岡営業所 ☎054-627-4255	四国営業所 ☎0877-22-9196
宇都宮営業所 ☎028-678-6408	おどろきの工場 ☎054-664-3270	九州支店 ☎0942-81-5566
北関東営業所 ☎0276-80-4250	名古屋支店 ☎052-559-9551	九州工場 ☎0942-81-5578
関東工場 ☎0276-80-4260	中部工場 ☎0568-47-5017	マリン事業開発部 ☎084-975-3888
大宮営業所 ☎048-664-6124	信州営業所 ☎026-239-7711	国際部 ☎084-951-2800
千葉営業所 ☎043-224-1422	滋賀営業所 ☎077-545-3440	
東京支店 ☎03-3455-0731	大阪支店 ☎06-6534-1301	
横浜営業所 ☎045-241-1111	姫路営業所 ☎079-282-0441	
新潟営業所 ☎025-286-8600	福山支店 ☎084-951-2212	

資 料 番 号 E 26(2021年6月)

●お問い合わせ
